

# マラヤン・バンキング (MBBM)

## インドネシアの貸出・預金の伸びに期待、「配当再投資プラン」実施による高配当性向・高配当利回りが魅力

マレーシア | 銀行 | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG MAY:MK | REUTERS MBBM.KL

- 2019/12 期 1Q (1-3 月) は、純営業収益が前年同期比 0.7% 増の 58.60 億 MYR、営業利益が同 5.2% 減の 24.15 億 MYR の増収・減益だった。
- 特にインドネシアの貢献による貸出および預金残高の伸びが純金利収益増に寄与したが、非金利収益の減収が響いて営業減益だった。
- 引き続きインドネシアの貸出残高の伸びに期待がかかるが、同社は「配当再投資プラン」実施により長期的に高い配当性向を継続しており、同社株式の高配当利回りを今後も後押ししよう。

### What is the news?

5/30 発表の 2019/12 期 1Q (1-3 月) は、純営業収益が前年同期比 0.7% 増の 58.60 億 MYR。手数料などの非金利収益が同 1.6% 減の 15.53 億 MYR だったものの、貸出利鞘に当たる純金利収益が同 1.6% 増の 43.06 億 MYR と増収に寄与した。営業利益が同 5.2% 減の 24.15 億 MYR、純利益が同 3.3% 減の 18.09 億 MYR。管理費が同 1.4% 増の 28.07 億 MYR、純減損 (償却) 費が同 27.3% 増の 6.37 億 MYR となったことが響き減益となった。

純金利収益については、シンガポールとインドネシアの預金コスト上昇が響いて純金利マージン (NIM) が 2.30% となり前年同期の 2.39% から悪化したものの、貸出残高が同 4.8% 増の 5,169 億 MYR、預金残高が同 4.8% 増の 5,576 億 MYR と伸びたことが奏功した。貸出および預金ともにマレーシア・シンガポール・インドネシアの全地域で伸びた。特にインドネシアは貸出が同 11.3% 増、預金が同 6.4% 増と好調だった。非金利収益の減収は主にデリバティブおよび金融負債の値洗い損失による一時的要因に負う面が大きい。資産の質に関しては 4Q の貸倒れ損失への引当率が 82.6% で前年同期の 87.9% から低下し、リスク加重資産も同 1.1% 増の 3,745 億 MYR と増加率が貸出伸び率より低く、健全性が保たれている。

### How do we view this?

2019/12 期の会社見通しでは、マレーシアは安定経済成長下で預金獲得競争が純金利マージン低下を招くおそれがあり、シンガポールはビジネス心理悪化懸念により貸出の伸びが減速する可能性がある。その一方で、インドネシアは最低賃金上昇と安定した物価上昇率を背景とした堅調な消費と運転資金の伸びに後押しされた経済成長により貸出が伸びると見ている。全体としては安定した貸出の伸びを期待できよう。また、同社株式の配当利回りの高さの背景には 2010 年以降に実施している「配当再投資プラン」の存在がある。同社は長期的な配当性向を 40-60% としているが、配当再投資プランは、配当金の一部を現金で受け取る代わりに希望に応じて配当金相当分の株を割り当ててもらえる制度である。2010 年以降の配当性向は 71.9-79.9% の範囲で推移している。2019/12 通期の市場予想は、当期利益が前期比 2.0% 増の 82.75 億 MYR である。

### 業績推移

※参考レート 1MYR=26.291円

事業年度	2016/12	2017/12	2018/12	2019/12F	2020/12F
売上高 (百万MYR)	31,755	33,177	34,750	24,780	25,894
純利益 (百万MYR)	6,743	7,520	8,113	8,228	8,712
EPS (MYR)	0.68	0.72	0.74	0.73	0.76
PER (倍)	12.76	12.01	11.66	11.82	11.34
BPS (MYR)	6.73	6.77	6.82	7.12	7.34
PBR (倍)	1.29	1.28	1.27	1.22	1.18
配当 (MYR)	0.52	0.55	0.57	0.59	0.62
配当利回り (%)	6.01	6.36	6.59	6.76	7.12

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想 (MYR)	0.59	(予想はBloomberg)
終値 (MYR)	8.65	2019/7/31

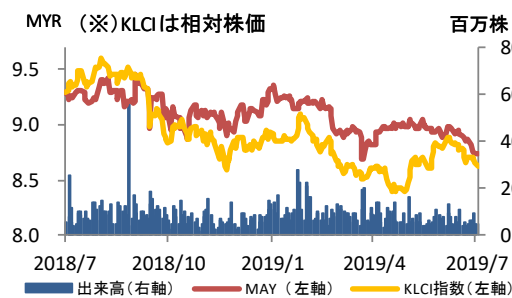
### 会社概要

1960年に設立されたマレーシアの大手商業銀行。マレーシア証券取引所で時価総額が最大の会社である。「メイバンク」の愛称として知られ、マレーシア、シンガポール、インドネシアを中心に一般商業銀行、イスラム系銀行業務を行う。子会社を通じて商業銀行、投資銀行、イスラム銀行、海外金融、リース、保険、ファクタリング、信託、資産管理、証券などのサービスを提供。グループ傘下のメイバンク・イスラムは、アジア太平洋地域のイスラム銀行として国内トップ。また証券事業のメイバンク・キムエンは、2011年にTOBにより三菱UFJ証券ホールディングスより買収した。

3つの中核事業セグメントとして、①コミュニティ金融サービス(消費者金融、中小企業向け金融、および事業金融を含む)、②グローバル銀行(大企業や機関投資家向けの金融であり、投資銀行、証券業務、アセットマネジメント業務を含む)、③通常の保険およびイスラム保険(タカフル)を手掛けている。

### 企業データ (2019/8/1)

ベータ値	0.86
時価総額(百万MYR)	97,238
企業価値=EV (百万MYR)	-
3ヵ月平均売買代金(百万MYR)	64.4



(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

### 主要株主 (2019/7)

1.SKIM AMANAH SAHAM BUMIPUTERA	34.59
2.EMPLOYEES PROVIDENT FUND BOARD	12.61
3.YAYASAN PELABURAN BUMIPUTRA	7.63

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

### アナリスト

笹木 和弘

kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp  
+81 3 3666 6980

増淵 透吾

togo.masubuchi@phillip.co.jp  
+81 3 3666 0707

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: フィリップ証券 リサーチ部

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員補 増淵透吾

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>